

「開かずの踏切」が開く40年の取組み ～駅・道路の面的整備による踏切除却

西日本旅客鉄道(株) 大阪市建設局 大鉄工業(株) ジェイアール西日本コンサルタンツ(株)

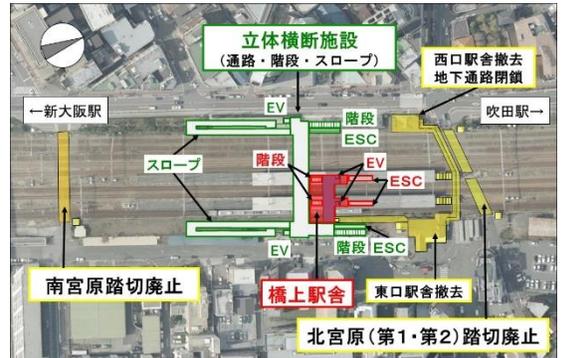
事業概要

＜背景・事業内容＞

JR東淀川駅の近傍にある北宮原踏切・南宮原踏切はJR西日本管内でワースト1・2の「開かずの踏切」である。北宮原踏切では1974年と1983年に死亡事故が発生し、事故のリスクが大きく、また、ピーク時は56分/時も閉鎖され、地域分断の弊害が大きい。1976年には踏切除却と駅橋上化を計画したが、自動車の迂回路がない等により、地域の方の理解が得られず計画が凍結され、40年来の懸案となっていた。一方、東淀川駅のバリアフリー化は東口のみといった課題があった。その後、周辺の都市計画道路の整備により、自動車の迂回路が確保されたことも踏まえ、東淀川駅の橋上化・立体横断施設整備を行い、北宮原・南宮原踏切を除却した。

＜課題となっていた点＞

- ①地域分断や踏切事故の解消と駅のバリアフリー化
- ②40年以上にわたる懸案であった踏切除却の実現
- ③踏切周辺道路は高度に市街化が進み、道路と鉄道との立体交差化は困難
- ④新しい施設は自転車利用が多いといった地域の特徴を反映する必要がある
- ⑤施工時の安全確保のために線路内作業を減らす
- ⑥駅工事では鉄道事業者内の調整に時間を要する



技術の概要

【新しい技術】 ①連続立体交差ではない、駅改良と合わせた踏切除却の実現、②ICTを活用した合意形成の試行

【使える技術】 ③地域の特徴や既存設備を考慮した設備計画、④鉄道の線間・線路上空での作業の削減

【成し遂げた技術】 ⑤40年以上前からの懸案であった危険な踏切の除却を可能とする計画の策定

【喜ばれる技術】 ⑥『開かずの踏切』の除却による安全性・利便性の向上と地域分断の解消による地域貢献

⑦踏切除却に合わせた東淀川駅のバリアフリー化



成果

地域の方にとって安全で利用しやすく、地域分断などの弊害を解消できるように、駅の橋上化・立体横断施設整備と組み合わせ、北宮原踏切・南宮原踏切の除却を図った。また、東淀川駅のバリアフリー化も合わせて実施し、これらにより、安全性・利便性の向上や踏切による地域分断の解消といった成果を得た。

